

## 基準 3. 教育課程

## 基準3. 教育課程

3-1. 教育目的が教育課程や教育方法に反映されていること。

(1) 事実の説明(現状)

3-1-① 建学の精神・大学の基本理念及び学生のニーズや社会的需要に基づき、学部、研究科ごとの教育目的・目標が設定されているか。

本大学院は1968(昭和43)年に大学院修士課程・音楽研究科として開設され、目的は大学院規則第3条第1項に定めている。

3-1-② 教育目的の達成のために、課程別の教育課程の編成方針が適切に設定されているか。

音楽大学の基礎の上に立ち、さらに高度の専門性を身につけるための教育を行う目的から、3専攻(作曲、声楽、器楽)・6研究室(作曲、音楽学(2004年度までは「楽理」)、歌曲、オペラ、ピアノ、管・弦・打楽器)に研究領域をおき、専門性の高い講義科目を配置している。そのため学位(「修士」音楽)取得には作曲専攻を除く演奏系の専攻(声楽、器楽)では、修了演奏に主眼を置いた科目が設定され、修士論文は修士演奏の補完的役割を担った論文指導の教育がなされている。作曲専攻・作曲研究室は修了作品を、作曲専攻・音楽学研究室では論文発表を修士取得の条件としている。

3-1-③ 教育目標が教育方法等に充分反映されているか。

大学院では、音楽人としての知識や能力を深めるため、演習科目を発展させた発表の場を数多く設定している。実践的で豊富な体験によって、更なる技術の向上や理論構築がなされ、その成果を自らが認識できる場としての研究発表会が行われている。また、学校法人が運営するザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団の伴奏による「マスターズ・コンサート」(2003(平成15)年度まではマイスターコンサート)では、演奏体験を積むこととなる。さらに年度末に行われる「大学院演奏会」では、全専攻・研究室が一体となり専攻を越えた交流により知識・能力の養成が行われている。

図表5 2003～2005(平成15～17)年度 研究室演奏会、マスターズ・コンサート、大学院演奏会

2003年度	行事	開演時間	会場	出演者数	主催研究室等
6月17日(火)	大学院2年 第11回 MEISTER KONZERT	18:30	ザ・カレッジ・オペラハウス	3名	大学院
6月20日(金)	大学院 オペラ試演会	17:30	ザ・カレッジ・オペラハウス	7名	オペラ研究室
6月26日(木)	大学院1・2年 歌曲研究発表会	18:00	ミレニアムホール	6名	歌曲研究室
7月1日(火)	大学院2年 ピアノ研究発表会	11:15	ミレニアムホール	2名	ピアノ研究室
7月7日(月)	大学院1年 ピアノ研究発表会	17:30	ミレニアムホール	1名	ピアノ研究室
9月26日(金)	大学院 管弦打ソロ研究発表会	14:00	ミレニアムホール	3名	管弦打研究室
11月6日(木)	大学院1・2年 歌曲研究発表会	18:00	ミレニアムホール	6名	歌曲研究室

12月 2日 (火)	大学院1・2年 管弦打室内楽研究発表会	17:00	ミレニアムホール	3名	管弦打研究室
12月 3日 (水)	大学院 オペラ修士演奏会	13:30	ザ・カレッジ・ オペラハウス	3名	オペラ研究室
12月17日 (水)	大学院 歌曲伴奏法 I 研究発表会	13:30	ミレニアムホール	4名	ピアノ研究室
1月13日 (火)	大学院1年 ピアノ室内楽 (管) ピアノアンサンブル研究発表会	11:15	ミレニアムホール	1名	ピアノ研究室
1月23日 (金)	大学院1年 オペラ研究発表会	17:30	ミレニアムホール	4名	オペラ研究室
1月30日 (金)	大学院1・2年 ピアノ室内楽 (弦) 研究発表会	13:30	ミレニアムホール	3名	ピアノ研究室
2月 7日 (土)	大学院1年 ピアノ研究発表会	17:00	ミレニアムホール	1名	ピアノ研究室
2月13日 (金)	大学院 作曲修士演奏会	13:00	ザ・カレッジ・ オペラハウス	4名	作曲研究室
2月14日 (土)	大学院 歌曲修士演奏会	13:00	ザ・カレッジ・ オペラハウス	4名	歌曲研究室
2月16日 (月)	大学院 管弦打修士演奏会	13:00	ザ・カレッジ・ オペラハウス	2名	管弦打研究室
2月20日 (金)	大学院 ピアノ修士演奏会	13:00	ザ・カレッジ・ オペラハウス	3名	ピアノ研究室
3月 4日 (木)	大学院1年 管弦打ソロ研究発表会	14:00	ミレニアムホール	1名	管弦打研究室
3月 7日 (水)	大学院 楽理修士論文研究発表会	13:00	A館 301教室	3名	楽理研究室
3月23日 (火)	大学院演奏会 「日本の音空間」	18:00	ミレニアムホール	19名	大学院

2004年度	行 事	開演 時間	会 場	出演者数	主催研究室等
6月16日 (水)	管弦楽による大学院2年生選抜演奏会 Masters' Concert	18:30	ザ・カレッジ・ オペラハウス	4名	大学院
6月24日 (木)	大学院 オペラ試演会	17:30	ザ・カレッジ・ オペラハウス	6名	オペラ研究室
6月30日 (水)	大学院1・2年 歌曲研究発表会	18:00	ミレニアムホール	4名	歌曲研究室
7月 6日 (火)	大学院1年 ピアノ研究発表会	11:15	ミレニアムホール	3名	ピアノ研究室
9月28日 (火)	大学院 管弦打ソロ研究発表会	14:00	ミレニアムホール	4名	管弦打研究室
11月 4日 (木)	大学院1・2年 歌曲研究発表会	18:00	ミレニアムホール	4名	歌曲研究室
11月30日 (火)	大学院1・2年 管弦打室内楽研究発表会	17:00	ミレニアムホール	4名	管弦打研究室
12月 4日 (土)	大学院 オペラ修士演奏会	13:30	ザ・カレッジ・ オペラハウス	4名	オペラ研究室
12月22日 (水)	大学院 歌曲伴奏法 I・II 研究発表会	13:30	ミレニアムホール	1名	ピアノ研究室

1月11日(火)	大学院1・2年 ピアノ室内楽(管) ピアノアンサンブル研究発表会	11:15	ミレニアムホール	2名	ピアノ研究室
1月21日(金)	大学院1年 オペラ研究発表会	17:30	ミレニアムホール	2名	オペラ研究室
1月28日(金)	大学院1・2年 ピアノ室内楽(弦) 研究発表会	13:30	ミレニアムホール	1名	ピアノ研究室
2月5日(土)	大学院1年 ピアノ研究発表会	17:00	ミレニアムホール	2名	ピアノ研究室
2月10日(木)	大学院 作曲修士演奏会	13:00	ザ・カレッジ・ オペラハウス	2名	作曲研究室
2月14日(月)	大学院 管弦打修士演奏会	13:00	ザ・カレッジ・ オペラハウス	1名	管弦打研究室
2月15日(火)	大学院 楽理修士論文審査	13:00	会議室	3名	楽理研究室
2月16日(水)	大学院 歌曲修士演奏会	13:00	ザ・カレッジ・ オペラハウス	2名	歌曲研究室
2月17日(木)	大学院 ピアノ修士演奏会	13:00	ザ・カレッジ・ オペラハウス	2名	ピアノ研究室
3月3日(木)	大学院1年 管弦打ソロ研究発表会	14:00	ミレニアムホール	3名	管弦打研究室
3月17日(木)	大学院 楽理修士論文研究発表会	13:00	A館 301教室	2名	楽理研究室
3月23日(水)	大学院演奏会 「音霊 平和へのメッセージ」	18:00	ミレニアムホール	17名	大学院

2005年度	行事	開演 時間	会場	出演者数	主催研究室等
6月15日(水)	大学院1・2年 歌曲研究発表会	18:00	ミレニアムホール	4名	歌曲研究室
6月20日(月)	大学院 オペラ試演会	17:30	ザ・カレッジ・ オペラハウス	6名	オペラ研究室
6月28日(火)	大学院2年 ピアノ研究発表会	11:15	ミレニアムホール	2名	ピアノ研究室
7月5日(火)	大学院1年 ピアノ研究発表会	11:15	ミレニアムホール	6名	ピアノ研究室
7月7日(木)	管弦楽による大学院2年生選抜演奏会 Masters' Concert	18:30	ザ・カレッジ・ オペラハウス	4名	大学院
9月27日(火)	大学院 管弦打ソロ研究発表会	14:00	ミレニアムホール	5名	管弦打研究室
11月15日(火)	大学院1・2年 歌曲研究発表会	18:00	ミレニアムホール	4名	歌曲研究室
11月29日(火)	大学院1・2年 管弦打室内楽研究発表会	17:00	ミレニアムホール	5名	管弦打研究室
12月3日(土)	大学院 オペラ修士演奏会	13:00	ザ・カレッジ・ オペラハウス	2名	オペラ研究室
12月21日(水)	大学院 歌曲伴奏法I・II研究発表会	13:30	ミレニアムホール	7名	ピアノ研究室
1月10日(火)	大学院1・2年 ピアノ室内楽(管) ピアノアンサンブル研究発表会	11:15	ミレニアムホール	3名	ピアノ研究室

1月20日(金)	大学院1年 オペラ研究発表会	17:30	ミレニアムホール	3名	オペラ研究室
1月24日(火)	大学院1・2年 ピアノ室内楽(弦)研究発表会	13:30	ミレニアムホール	2名	ピアノ研究室
1月27日(金)				3名	
2月4日(土)	大学院1年 ピアノ研究発表会	17:00	ミレニアムホール	6名	ピアノ研究室
2月13日(月)	大学院 歌曲修士演奏会	13:00	ザ・カレッジ・ オペラハウス	2名	歌曲研究室
2月14日(火)	大学院 管弦打修士演奏会	13:00	ザ・カレッジ・ オペラハウス	3名	管弦打研究室
2月15日(水)	大学院 作曲修士演奏会	13:00	ザ・カレッジ・ オペラハウス	2名	作曲研究室
2月16日(木)	大学院 ピアノ修士演奏会	13:00	ザ・カレッジ・ オペラハウス	2名	ピアノ研究室
3月9日(木)	大学院1年 管弦打ソロ研究発表会	14:00	ミレニアムホール	2名	管弦打研究室
3月23日(水)	大学院演奏会「大地の鼓動」	18:00	ミレニアムホール	24名	大学院

### (2) 3-1の自己評価

大学院の教育目標を果たすために2つの施設(ザ・カレッジ・オペラハウス、ミレニアムホール)は、有効な能力開発の場となっている。また研究室間の交流が「大学院演奏会」を生み、さらに研鑽(と発表の場)を海外にまで広げる意欲を持つ結果として、国際交流奨励支援制度の発足を大学に促した。これらは研究の高度化を促し国際性を培う糧となっている。

図表6 国際交流実績

研修地		プラハ大学アカデミー
参加人数	2003年度	4名
	2004年度	10名
	2005年度	8名

### (3) 3-1の改善・向上方策(将来計画)

音楽のみに没頭する傾向のある学生が多いことの反省から、幅広い見識を持つ人格を形成することを目指して、音楽分野以外の著名人による講座「芸術文化の諸相」を開講しているが、履修を1年次のみの必修または選択科目としている研究室もある。豊かな人間性を兼ね備えた音楽人を輩出する目的であるこの科目を全研究室に対して必修とし、専攻間の不均衡を解消したい。

## 3-2. 教育課程の編成方針に即して、体系的かつ適切に教育課程が設定されていること。

### (1) 事実の説明(現状)

#### 3-2-1 教育課程が体系的に編成され、その内容が適切であるか。

大学院の目指す専門的な能力の育成を主眼とするため、まず専門実技を専攻主科目と捉えたうえで、専攻に配置された専門科目群及び論文研究を年次別に履修するよう体系的に教育課程が設定されている。

### 3-2-② 教育課程の編成方針に即した、授業の内容となっているか。

専門の主科目として演奏系の専攻では専攻の専門研究を8単位、作曲専攻音楽学研究室の研究演習(6単位)を設けている。また演習・講義の科目は専攻の特色を生かした科目群を設けている。「芸術文化の諸相A・B」を全専攻に開講しており、幅広い見識を持つ人格を形成するための科目となっている。これらのことは大学院学生便覧に明記されている。

図表7 専攻・研究室別教科課程表 2005(平成17)年度

#### ◆作曲専攻(作曲)教科課程表

授業科目名	単位 算出基準	基準履修年次		最低修得 単位数
		1年次	2年次	
作曲研究	実・講	8	8	36
作曲法特殊研究A作品研究(西洋)	演	2	2	
作曲法特殊研究B作品研究(日本)	演		2	
作曲楽書研究	演	2	2	
管弦楽作品研究	演	2	2	
現代音楽演習	演	2	2	
芸術文化の諸相A	講	2		
芸術文化の諸相B	講		2	
電子音楽研究	講	2	2	
他専攻の授業科目	}	8		
大学(学部)開講科目				
修了要件単位				36

#### ◆作曲専攻(音楽学)教科課程表

授業科目名	単位 算出基準	基準履修年次		最低修得 単位数
		1年次	2年次	
音楽学研究演習	実・講	6	6	22
音楽研究実習	演	2	2	
文献研究	演	2	2	
音楽学合同研究演習	演	1	1	
音楽学特殊研究(西洋)	講	4	4	8
音楽学特殊研究(日本・東洋)	講	4	4	
芸術文化の諸相A	講	2		2
芸術文化の諸相B	講		2	32
他専攻の授業科目	}	8		
大学(学部)開講科目				
修了要件単位				32

◆声楽専攻（オペラ）教科課程表

授業科目名	単位 算出基準	基準履修年次		最低修得 単位数
		1年次	2年次	
声楽研究	実・講	8	8	38
歌劇曲研究	演	2	2	
リブレット研究	演	2		
舞台言語表現法	演		2	
演技演出研究	実	4	4	
修士演奏資料研究	演	2	2	
芸術文化の諸相A	講	2		
芸術文化の諸相B	講		2	38
オペラ研究	実	2	2	
演技研究	演	2	2	
声楽特別研究	演	2	2	
現代音楽演習	演	2	2	
他専攻の授業科目	}	8		
大学（学部）開講科目				
修了要件単位				38

◆声楽専攻（歌曲）教科課程表

授業科目名	単位 算出基準	基準履修年次		最低修得 単位数
		1年次	2年次	
声楽研究	実・講	8	8	30
歌曲研究（ドイツ）	演	2	2	
歌曲研究（日本）	演	2	2	
歌曲研究Ⅰ（宗教曲・重唱）	演	2		
修士演奏資料研究	演	2	2	
芸術文化の諸相A	講	2		
芸術文化の諸相B	講		2	
オペラ研究	実	2	2	30
歌曲研究Ⅱ（宗教曲・重唱）	演		2	
ドイツ語発語法	講	4		
声楽特別研究（Ⅰ）	演	2	2	
現代音楽演習	演	2	2	
他専攻の授業科目	}	8		
大学（学部）開講科目				
修了要件単位				30

◆器楽専攻（ピアノ）教科課程表

授業科目名	単位 算出基準	基準履修年次		最低修得 単位数	
		1年次	2年次		
ピアノ研究	実	8	8	30	
ピアノ演奏演習	演	1			
ピアノ演奏演習（協奏曲研究を含む）	演		1		
ピアノ曲分析	演	2	2		
特別研究	実・講	2	2		
修士演奏資料研究	演	2	2		
芸術文化の諸相A	講	2		30	
芸術文化の諸相B	講		2		
外国語研究	演	2			
歌曲伴奏法	演	2	2		
ピアノアンサンブル研究	演	2			
室内楽研究（管楽器）	演	2			
室内楽研究（弦楽器）	演	2			
ピアノ指導法	講	4			
現代音楽演習	演	2	2		
他専攻の授業科目	}	8			
大学（学部）開講科目					
修了要件単位					30

◆器楽専攻（管・弦・打楽器）教科課程表

授業科目名	単位 算出基準	基準履修年次		最低修得 単位数
		1年次	2年次	
管楽器研究	実	8	8	16
弦楽器研究	実	8	8	
打楽器研究	実	8	8	
室内楽研究	演	2	2	4
修士演奏資料研究	演	2	2	4
特別研究	実・講	2	2	4
芸術文化の諸相A	講	2		2
芸術文化の諸相B	講		2	2
管楽器分析	演	2	2	
弦楽器分析	演	2	2	
打楽器分析	演	2	2	
オーケストラ	演	4	4	
吹奏楽	演	4	4	
現代音楽演習	演	2	2	



他専攻の授業科目	8	32
大学(学部)開講科目		
修了要件単位		

### 3-2-③ 年間学事予定、授業期間が明示されており、適切に運営されているか。

年間学事予定や授業期間は「大学院学生便覧」に掲載されており、さらに詳細は新年度ガイダンス時に配布する「行事予定表」に記載されている。

### 3-2-④ 年次別履修科目の上限と進級・卒業・修了要件が適切に定められ、適用されているか。

- ・ 大学院の研究内容を考慮し、年次履修科目の上限は設けてはいない。
- ・ 進級及び修了要件については、大学院規則「第6章 授業科目・単位及び履修方法」、「第7章 課程修了の認定」、「第8章 学位」及び大学院学位規則・大学院履修規程に明記されている。
- ・ 大学院運営委員会においてこれらの規程に従い進級・修了が認定されている。

図表8 大学院修了要件に関する諸規程

大阪音楽大学大学院規則 (2005年4月1日改正)

#### 第6章 授業科目・単位及び履修方法

第15条 学生は専門教育の必修科目及び選択科目をあわせて30～38単位以上修得し、修士作品、修士論文、又は修士演奏の審査を受け、かつ、最終試験を受けるものとする。なお、各専攻・研究室の修得単位数については別に定める履修規程によるものとする。

2. 学生は所属する研究指導教員の指導により研究するものとする。
3. 選択科目の選択にあたっては予め研究指導教員の指導をうけるものとする。ただし、他専攻(他研究室を含む)に属する科目及び大学(学部)開設科目から選択する場合は、その単位数を8単位以内に限る。
4. 本大学院が教育上有益と認めるときは、学生が入学前に大学院において修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む)を、委員会の定めるところにより、10単位を超えない範囲で本大学院において修得したものとみなすことができる。
5. 本大学院が教育上有益と認めるときは、学生が他の大学院において修得した単位を、委員会の定めるところにより、10単位を超えない範囲で本大学院において修得したものとみなすことができる。
6. 前項の規定は、学生が外国の大学院に留学する場合に準用する。

#### 第7章 課程修了の認定

第16条 課程修了の認定は、2年以上在学して所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、当該大学院の行う修士作品又は修士演奏の試験及び修士論文の審査に合格した者とする。

2. 科目修了の認定については特に委員会の承認を得た科目については、平常の成績又は報告等により認定することができる。
3. 修士作品の題目又は修士演奏の曲目及び修士論文の題目は1年以上在学し、必修科目及び選択科目をあわせて第1年次で取得すべき単位を修得した者でなければ提出することができない。
4. 前項の修士作品、修士論文、又は修士演奏の審査を受けようとする者は修了年度の指定の期日までに修士作品の題目又は修士演奏の曲目及び修士論文の題目を研究科長に届け出なければならない。なお、指定期間内に提出できなかった場合、その年度内の審査は行わないこととする。ただし、特別の事情により提出する事ができなかった者については、委員会の議を経て追提出をすることができる。
5. 特別の事情により試験を受けることができなかった者については、委員会の議を経て追試験を行うことができる。
6. 休学している者が学年の途中で復学したときは、当該学年の試験を受けることができない。ただし、特別の事情がある者は願出により委員会の議を経て受験させることができる。
7. 教育職員免許法及び同法施行規則に定める単位を修得し、修士課程修了の認定を受ければ、次の教育職員免許状を取得できる。

中学校教諭専修免許状（音楽）

高等学校教諭専修免許状(音楽)

## 第8章 学 位

第19条 本研究科において、2年以上在学し、第15条に定める所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士作品、修士論文、修士演奏の審査を受け、最終試験に合格した者に対しては、学長が「修士」の学位を授与する。

2. 学位に関する規則は別にこれを定める。

大阪音楽大学大学院学位規則 2005年4月1日現在（2004年4月1日改正）

第3条 第3項 審査員は修士作品及び修士作品に関する論文、修士論文又は修士演奏及び修士演奏に関する論文の審査及び試験を行うものとする。

第4条 審査員は修士作品及び修士作品に関する論文、修士論文又は修士演奏及び修士演奏に関する論文の審査の結果及び最終試験の成績を委員会に報告しなければならない。

第5条 第1項 委員会は審査員の報告に基づいて審議し合格不合格を決議する。

大学院履修規程 (2005年4月1日改正)

第2条 第1項 音楽研究科課程修了(専攻)および学位(修士)取得のための最低修得単位数は次の通りとする。

専攻名		最低修得単位数
作曲	作曲	36
	音楽学	32
声楽	オペラ	38
	歌曲	30
器楽	ピアノ	30
	管・弦・打	32

3-2-⑤ 教育・学習結果の評価が適切になされており、その評価の結果が有効に活用されているか。

課程修了の認定については、大学院規則第7章で規定されている。評価は「平常の出席状況や講義・演習時の状況で評価する」方法を基本としている。修士作品・修士演奏及び修士論文は別途、「課程修了の認定等に関する内規」によって詳細に規定されている(学生便覧記載)。教育・学習結果の評価については常に大学院運営委員会を中心にカリキュラム検討等に活用している。

3-2-⑥ 学士課程、大学院課程、専門職大学院課程等において通信教育をおこなっている場合には、それぞれの添削等による指導を含む印刷教材等による授業、添削による指導を含む放送授業、面接授業もしくはメディアを利用しておこなう授業の実施方法が適切に整備されているか。

通信教育はおこなっていない。

(1) 3-2の自己評価

それぞれの専攻が明確な教育目標を持ち、豊富な内容の授業を展開することにより優秀な修了生を多数輩出しており、成果として修了後に音楽の分野において重要な活躍をしていることが見て取れる。ただし、専門分野に研究が偏りがちであることがやや懸念され、社会人として、また音楽以外の分野にも通用する人物を送り出すことも本大学院として重要な役割と考える。

(2) 3-2の改善・向上方策(将来計画)

大学院では開設科目の大半に履修年次指定があり履修単位の上限をこれまで設けていない。各年次の履修科目の上限を設ける必要がある。

音楽学部卒業見込で成績優秀かつ将来性ありと認められた者に対し大阪音楽大学大学院奨学金制度が設けられている。音楽学部卒業時に設けられている成績優秀者に与えられる褒賞制度が大学院には存在しないが、研究意欲の向上も考えると大学院にも修了時の評価に対する褒賞が存在するべきである。

大学院ではこれまで成績評価を4段階（秀・優・良・不可）で評価されてきた。より正確な評価という考えに立った場合、5段階評価（秀・優・良・可・不可）を導入すべきであると考えられる。

現在、専攻・研究室間で修了要件単位が異なっている（30～38単位）が、専攻・研究室の科目構成および修了要件単位について、検討を進める必要がある。

### 3-3. 特色ある分野における教育内容・方法に工夫がなされていること。

#### (1) 事実の説明（現状）

#### 3-3-① 特色ある分野における教育内容・方法に工夫がなされているか。

学生が修了後に音楽の分野において活躍できるよう、演奏家の準備段階としての教育を行う準備を進めている。これは、学生が自ら演奏の場を開拓し、計画・立案・交渉・実施にいたる過程すべてを体験するもので、初年度は16回の開催を予定している。この分野におけるインターンシップ活動または実践教育と捉えている。

全研究室が専攻の枠を超えた年度末の「大学院演奏会」では、大学院の全学年・全専攻生が一体となり専攻を越えた交流による知識・能力の涵養が行われている。企画・運営・実施にいたるまでには相当の努力が必要とされるが、一般的に催されることの少ない貴重な企画には「大学院演奏会」であることの意義が十分に反映されている。

大学（音楽学部・専攻科）と大学院合同の大学オペラ公演を「オペラ研究」の講義科目として2004年度以降設置している。ザ・カレッジ・オペラハウスを最大限に活用し、オペラ研究室の学生がオーデションで選ばれた学生とともにモーツァルトのオペラ全幕を学生オーケストラによる演奏で公演している。大学院学生は学部生の手本となるべき演奏を心がけ、学部生は大学院生の演奏を目標として研究しており、優れた舞台を作り上げ成果を上げている。

図表9 2003～2005（平成15～17）年度 学生オペラの参加学生数（人）

演目／日程		第15回 モーツァルト 「魔笛」		第16回 モーツァルト 「コジファン トウツェ」		第17回 モーツァルト 「魔笛」	
		2003.10.01(水) 18:00 開演	2003.10.02(木) 18:00 開演	2004.10.01(金) 18:00 開演	2004.10.02(土) 18:00 開演	2005.10.01(土) 18:00 開演	2005.10.02(日) 14:00 開演
		キャスト	学生	3	0	3	3
大学院以外の学生	14		18	4	5	11	18
客演等	1		0	0	1	0	1
合計	18		18	7	9	17	20
合唱	学生	0		0		0	
	大学院以外の学生	25		23		19	
	客演等	0		0		0	
	合計	25		23		19	

#### (2) 3-3の自己評価

学生が個人の研究に閉じこもることなく外に眼を向け、専攻外の知識を取り入れることによって、社会に出ても通用する次代の音楽家育成の成果が現れていると認識している。

#### (3) 3-3の改善・向上方策（将来計画）

通常の授業以外に行っている特色ある教育が、修士号取得を控えた学生にとって時間的余裕を持てるかをよく検証する必要がある。特に「大学院演奏会」はその年度の全ての行事が終了したあとの本番ではあるが、計画・準備は一年を通して行われており、責任者には相当の負担であると思われるので、運営方法を精査する必要がある。

### 【基準3の自己評価】

本大学院は、高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培う研究機関である。これまでに関西のみならず国内外で中心的な存在の演奏活動や教育活動をしている本大学院卒業生を輩出していることから評価できると思う。

### 【基準3の改善・向上方策（将来計画）】

大学院では修士取得の2年間の研究ではあるが、単年度での履修状況の確認があってもよいと思われる。

修了後の更なる研究を望む学生のことを考えると、留学制度の充実や、博士課程に関する議論も含め大学院研究科の教育課程全般の検討が必要である。

音楽の専門家としての教育のみならず、その他の分野でも活躍できる人物育成のための教育プログラムを積極的に取り入れる必要がある。